

## 今度の検討の方向性について（案）

検討の視点	課題（例）	今後の検討の方向性（例）
○認証申請者にとっての 認証制度の利便性の 向上	○申請から認証までの手続きが煩雑	○申請手続の簡素化 ○申請者のサポート体制の充実 （申請手続の支援、教材・セミナー等の充実）
	○カーボン・オフセットの概念や認証に係る要求事項に明確でない部分がある	○排出量の算定、クレジットの取得等、取組の一連の過程に係る概念・基準の明確化
○消費者への理解の浸透	○カーボン・オフセットの取組情報が消費者の目に届いていない ○カーボン・オフセットの概念・取組情報が理解されにくい ○カーボン・オフセットの取組への参加、「オフセット商品」の選択に対するインセンティブに限界がある	○ラベリングの工夫等による情報提供ツールの整備 ○カーボン・オフセットの取組への関心を高める工夫 （セミナー等の啓発機会の提供等） ○消費者の理解、行動の促進に向けた地方公共団体、民間関連団体との連携、取組支援 ○「オフセット商品」の排出量算定における算定対象範囲の設定方法等の明確化
○カーボン・オフセット 取組の高付加価値化	○カーボン・オフセットの取組が社会的に評価されにくい ○取組における CO2 削減効果以外の効果が十分に活用されていない	○高い付加価値を有する取組が効果を上げている事例の評価・公表、取組の普及 ○CO2 削減効果以外の環境配慮の観点の組み込み （評価項目、評価方法等の検討）
	○カーボン・ニュートラルのような新しい取組の考え方が整理されていない	○カーボン・ニュートラルの概念整理、算定対象範囲の設定方法、ラベル使用方法の課題整理等
○地方公共団体や民間の 多様な主体の取組推進	○カーボン・オフセット普及のポテンシャルに比べて取組事例が少ない	○カーボン・オフセット普及促進母体の活性化
	○認証プログラムや認証主体が限定的	○認証を行う主体の多様化 ○地方独自の取組の推進 ○認証プログラムや認証主体の質の確保

※上記のほか、東日本大震災からの復興の過程においてどのような役割を果たすことができるか、という視点にも留意。